

ふだらく
③④ (月山) 東西補陀落

ふだらく
補陀落とは、観音菩薩の降臨する霊場であり、観音菩薩の降り立つとされる伝説上の山であり、いわば観音様のお住まいになる浄土をいう。なお、写真は全て私が撮影しものである。

ふだらく
③東補陀落 (ひとり参詣^{とそう}抖敷)



場所は前頁図-1のとおり。2017(H29)年8月26日(土)は一人で行って来た。——正味
2017(H29)年8月27日(日)～8月28日(月)1泊2日間の「道智道」スルーハイク時(月山八合目中
の宮御田原神社前日泊⇒大井沢泊⇒白鷹町黒鴨^{くろかも})——における前日26日(土)にこの東補陀落を往復
して来た。昔行ったことはあったが、現地の状況の記憶はすっかり失せてしまっていた。行って
見たものは図-2のとおりであった。まさに、棒状巨岩は男根そのものに見えた。金剛界補陀落の象
徴に真に相応しいものであった。

私が行った8月26日(土)は、羽黒山の神道派・仏教派の山伏修行(峰入り)期間であるが、この地
に来るのは8月末であろうからもちろん遭遇はしなかった。ただ、下刈りされていたことからお陰様で
歩くには支障皆無であった。

なお、松尾芭蕉は、元禄2(1689)年7月22日(旧6月6日)ここに来て参拝している。



図-2

出羽三山の大神を讃え言祝ぐ出羽三山三語拜詞^(※)ならびに三山拜詞^(※)を唱えて参拝した。(※)
後記する。

東補陀落垂直岩峰部と御浜池は一体であり、帰途に着き御浜池分岐で同池方面を覗いて見た処、歩
けそうな道はあったが、14時30分を過ぎていたことからこの時は断念することにした。

④西補陀落

場所は次頁図-3のとおり。2016(H28)年10月13日(木)同行者計15名で行って来た。行って見たものは後記図-4aのとおり。もう少し水量が多ければ黒ずんだ両側は一つになる、すると、水筋の両側の白い部分は(女性)両股の太腿内側にも似ており、俯瞰するとまさに女陰に重なって来る。以前は上部には、湯殿山御神体に似た湯が沁み出る岩塊があったというが、今はその痕跡はなかった。このように鉄分を含んで黒ずんだ所は今回のルート上で他にはなかった。

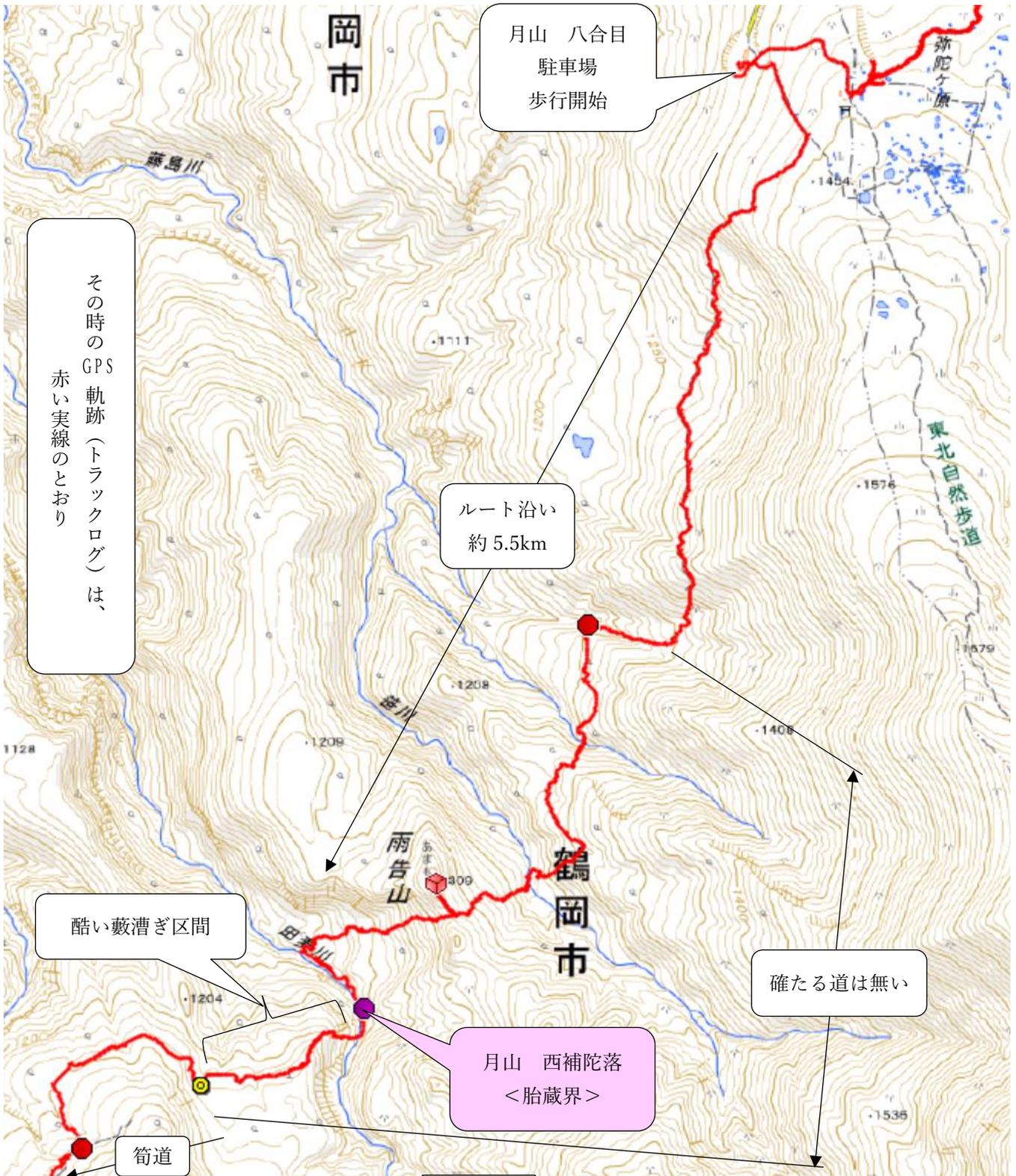


図-3

秘所へのルート故に、踏み型はあるものの下刈りはされておらず、何も目印は無く、かつ藪漕ぎを強いられ、いずれにしても、土地不案内、健脚者以外は立ち入り不可である。

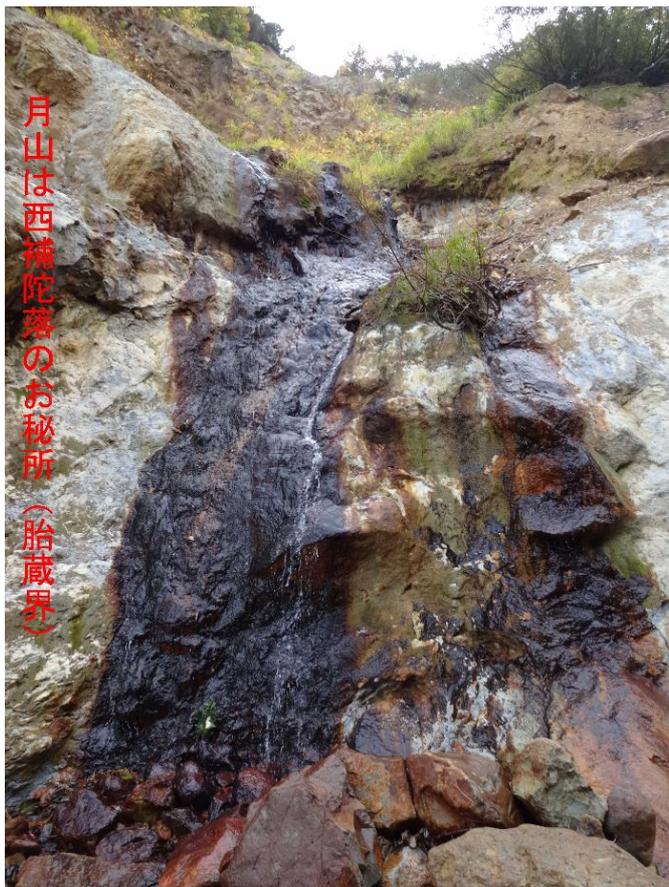


図-4 a

この西補陀落および^{あまもりやま}雨告山
(前頁図-3参照)においては、出羽三山の大神を讃え寿ぐ
三語拝詞および出羽三山拝詞を
唱え、参拝して来た。15名(図-4 b)もの齊唱は谷間にこだま
してとても荘厳な感じがした。



(於 雨告山) 西補陀落講 平成28年10月13日

図-4 b

1. 毎時、定時定例の儀式

前記、東補陀落参詣の翌日、2017(H29)年8月27日(日)5時6分、「道智道」スルーハイク時スタートの朝、図-5のとおり、中の宮御田原神社において、早朝、ご来光を正面に仰ぎながら出羽三山の神職が祝詞奏上の儀式を執り行った。真に神々しく素晴らしい光景であった。私も一緒に拍手を打ち、頭を垂れた、出羽三山の大御神に感謝の誠を奉げた。。



図-5

2. 神様を崇敬し寿ぐ拝詞

出羽三山に趣き、要所において唱える神様崇敬の詞のこと。2016(H28)年2月13日(土)に開催された「白鷹町史談会研修会」において、大井沢湯殿山神社宮司の志田菊宏さんが、出羽三山三語拝詞・三山拝詞を自ら唱えて紹介された。

出羽三山拝詞をととても気に入ってしまい、節の抑揚について覚えたく、私の菩提寺石行寺住職の支援を賜りながら私的に作成したのが後記図-6である。自宅の神棚に向かいて、時々唱えている。とても、落ち着いた爽快な気分になる。

(1) 三語拝詞／各々三回詠唱

【祓詞】もろもろ つみけがれはら みそぎ すがすが
諸々の罪 穢 祓い(え) 禊 て清々し(え)

【神詞】え たまい いづ みたま さきは たまい
遠つ神笑み 給 へ 稜威の御霊を 幸 へ 給 へ

【賀詞】あまつひつぎ まさ あめつち むたとこしえ
天津日嗣の栄え坐む(ん)こと 天地の共無窮なるべし

(2) 出羽三山拝詞／各々三回詠唱

【月 山】みやま あや あや くす たうと みやま みまえ おろが まつ
月の御山の大神に、綾に綾に奇しく 尊 と月の御山の神の御前を 拝 み奉る

【羽黒山】いでは あや あや くす たうと いでは みまえ おろが まつ
出羽の大神に、綾に綾に奇しく 尊 と出羽の神の御前を 拝 み奉る

【湯殿山】みやま あや あや くす たうと みやま みまえ おろが まつ
湯殿の御山の大神に、綾に綾に奇しく 尊 と湯殿の御山の神の御前を 拝 み奉る

出羽三山拝詞（神を寿ぐ唱え言葉） ”つき（いでは・ゆどのの）のみやまのおおかみに～”

綾(あや)に綾(あや)に 奇(くす)しく尊(たう)と 月の御山(みやま)の 神の御前(みまえ)を 拝(おろが)み奉(まつ)る

ド		と～～		の～～みま～	
リ			つ		(あ)
ソ		す～～し～くた～う		～～きの～みや～まの・	か～み
シ	(あ)～や～にあ～				え
セ	あ	や～に・	く		を
ド					ろが～～みま～
					お
					つ
					る

綾(あや)に綾(あや)に 奇(くす)しく尊(たう)と 出羽(いでは)の 神の御前(みまえ)を 拝(おろが)み奉(まつ)る

ド		と～～		の～～みま～	
リ			い		(あ)
ソ		す～～し～くた～う		で～はの・	か～み
シ	(あ)～や～にあ～				え
セ	あ	や～に・	く		を
ド					ろが～～みま～
					お
					つ
					る

綾(あや)に綾(あや)に 奇(くす)しく尊(たう)と 湯殿の御山(みやま)の 神の御前(みまえ)を 拝(おろが)み奉(まつ)る

ド		と～～		の～～みま～	
リ			ゆ		(あ)
ソ		す～～し～くた～う		ど～のの～みや～まの・	か～み
シ	(あ)～や～にあ～				え
セ	あ	や～に・	く		を
ド					ろが～～みま～
					お
					つ
					る

図-6

3. ③④東西補陀落への古道

山と溪谷社の「アルパインガイド 東北の山」から抜粋を図-7に記載する。

東補陀落・御浜池には、月ノ沢発電所側——立谷沢川資料ニゴリ沢沿いからの山道があった。もちろん、月山八合目弥陀ヶ原からは行けた。

西補陀落には、月山への湯殿山側登拝コース上山頂直下にあった鍛冶小屋からの山道があった。20代後半にこのルートに挑戦し、途中までは確かに道があり、後半は田麦川金剛沢に入ったが、滝つぼがあって引き返して来た記憶がある。

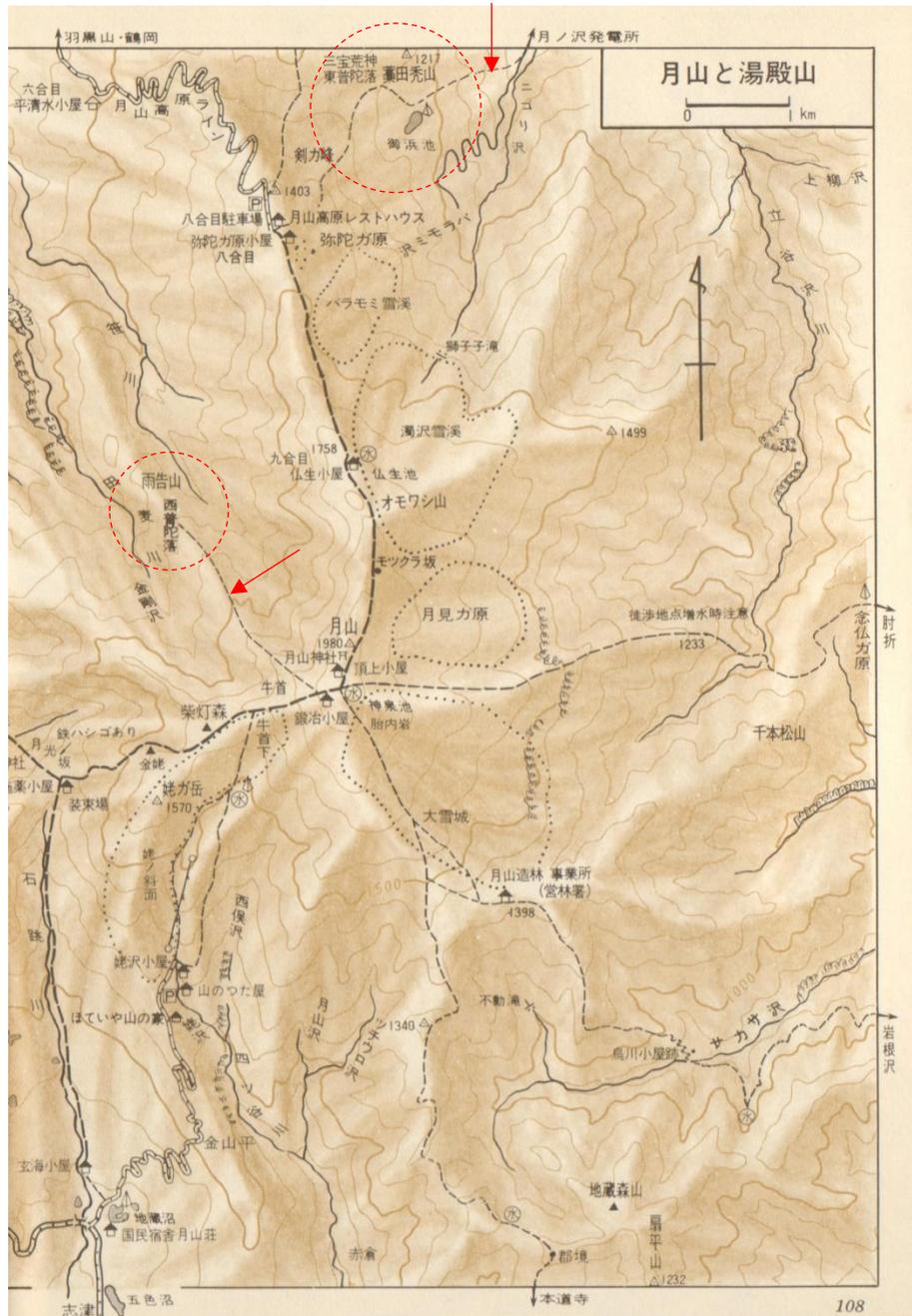


図-7

(end)